

厚労省に続きまたもや統計改竄。国交省建設業受注、なんと消しゴム使い書き換え、鉛筆書きはそのためか。「ふざけるな」と森友・赤木訴訟の認諾からも齋藤幸平『人新世の「資本論」』第8章「気候正義という「梃子」」を竹内さんの報告で行いました。晩期マルクスの新たなレンズで、欧州中心主義からグローバル・サウスへの眼差しの姿勢が21世紀に重要になった。都市・技術発展の行き過ぎを修正し、気候危機への対処でコミュニティ・相互扶助を取り戻す。自治体バルセロナでは市民の力を結集、市民の生活・環境・使用価値への転換へ、具体的改革プランと地域政党・社会運動で、横の連帯へ。ワーカーズコープの伝統と国境を超えるミュニバリズムによる公営化ノウハウ共有。アグリビジネスに対し食料はコモンである。晩年マルクスのアイルランド労働者への連帯を梃子とした。脱成長から持続可能性へ。コモンの領域を拡大し、新自由主義が解体した信頼と相互扶助を回復し、国際連帯で資本と対峙し、相互扶助・自治・脱成長コミュニズムが着地点となる。討論では、前回質問への齋藤幸平さんからの回答(竹内さんからの報告)、「階級闘争」の用語：現代は労働組合・労働運動は力にならず、市民・個人としての存在、階級論は開店休業状態。ピケティが社会主義に転向した。単作農業強制：インドは茶、カリブは砂糖、東南アジアは海老。ミュニバリズム：自治体主義、バルセロナはスペインではなくカタルーニャとして独立運動と弾圧。共同体を自治として理想化するが、拘束が多い。村落の年貢：村請。芦尾銅山：鉱夫の連帯、古河がこれを解体、親方制。出席は、小野さん、川口さん、松村さん、齋藤さん、竹内さん、山口さんと高田の7名でした。

- *注意！12月22日ゼミの会場変更：天六・大阪市立住まい情報センター・5階研修室、地下鉄・阪急天神橋筋六丁目駅下車3号出口から連絡
- *12月8日ゼミで、齋藤幸平『人新世の「資本論」』が終わりました。
1月12日ゼミは、サンデル『実力も運のうち 能力主義は正義か?』の第7章「労働を承認する」を行います。1章のみですので、コピー版を利用します。知らせ済みですが、コピー版必要な方は当方まで連絡下さい。
- *2月9日ゼミからのテキスト：芦田文夫『「資本」に対抗する民主主義―市場経済の制御と「アソシエーション」』本の泉社,2021-10、です。

***** ゼミ日程 *****

- 12月22日(水)午後6時半～9時 天六・大阪市立住まい情報センター
マルクス『資本論』第3巻38章 差額地代 概説 報告：高田
- 1月12日(水)午後6時半～9時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
M.サンデル『実力も運のうち 能力主義は正義か?』7章 報告竹内さん
- 1月26日(水)午後6時半～9時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
マルクス『資本論』第3巻39章 差額地代の第一形態 報告者未定
その後 2022/2/9, 2/23, 3/9, 3/23 : アイクルの部屋